

2008年5月20日 東京

ミウラ隊 いよいよ エベレスト山頂アタックへ向けて出発

三浦雄一郎(75歳)と次男・豪太(38歳)がエベレスト山頂(8848m)へ向けて、20日午前5時(日本時間・午前8時15分)ベースキャンプ(5360m)を出発いたしました。

当初、中国チベットより登攀予定のミウラ隊でありましたが、3月に勃発したチベット自治区内の騒乱の影響でチベットへの入域が規制されたことにより、4月になって登攀ルートをネパール側に変更いたしました。ミウラ隊は4月25日にネパール側にベースキャンプを設営。三浦雄一郎は2度アイスフォールを登り、標高6050mの第1キャンプ(C1)にて1泊、6450mの第2キャンプにて2泊の高度順応を終えた後、標高4300mのディンボチエにて山頂アタック前の休養をとっておりました。

下記が山頂アタックへ向けてのスケジュールとなります；

5月20日： BC(5360m)→C1(6050m)
5月21日： C1(6050m)→C2(6450m)
5月22日： C2(6450m)
5月23日： C2(6450m)→C3(7300m)
5月24日： C3(7300m)→C4(8000m)
5月25日： C4(8000m)→C5(8300m)
5月26日： C5(8300m)→頂上(8848m)→C4(8000m)
5月27日： C4(8000m)→C2(6450m)
5月28日： C2(6450m)→BC(5360m)

天候、体調などの条件が揃えば、5月26日に登頂を目指します。

今年のエベレストは中国側からの聖火登山隊により、様々な厳しい規制がネパール側に強いられることとなりました。特に、5月10日までは上部キャンプ(6400m)以上の登攀が禁止され、その為、高所登山に必要な高度を上げての順応が例年より充分に行うことができず、また、ミウラ隊同様に中国側からの登攀を計画していた登山隊がネパール側に移行したことによって、エベレスト史上最大数の人間が限られた時間のなかで荷揚げとルート作りを行い、山頂を目指すこととなります。

このことは75歳そして不整脈というハンディを持つ三浦雄一郎にとって、さらに厳しい条件となりますが、三浦雄一郎をはじめとする4名の登頂隊メンバー(三浦雄一郎・豪太親子、村口徳行、五十嵐和哉)そしてサポートのシェルパー同、万全を期して、本日より登山活動を開始いたします。

出発前 三浦雄一郎のコメント (5月19日の日記より)

いよいよ、明日の朝五時、ベースキャンプを出発する。

3月に日本を出発してほぼ2ヶ月。その間、チベット問題でチョモランマ側の登攀を諦め、ネパール側からエベレストへの再チャレンジということになった。2003年の時と違うのは登山計画に関して中国聖火隊の5月10日までの制約があった。我々の隊に関しても、僕自身がキャンプ2からできればローツエフェースの取り付けまで登って、高度順化と体調をみたかったが規制により出来なかった。

結果として僕自身は2度の高所順応後、デインボチェ(4300m)に降りて休養となったが、豪太、村口、五十嵐の三人はもう一度C2からローツエフェースの取り付けまで登った。しかしこのときも規制解除の直後ということで、ローツエフェースは一本のロープに150人以上のクライマーが取り付く、非常な混乱となり、危険極まりない状態で、豪太たちもC3まで登ることが出来なかった。そんなわけでいつもの年のように順当な高所順化のスケジュールを行えず、かなり省略して今回の本番アタックとなる。

今回の一番の問題は、キャンプ2から上、C3(7300m)、C4(8000m)、C5(8400m)の高所での僕自身の体調、特に心臓の不整脈がどうなるかが登頂計画に影響する。幸いなことに6600mまでのかなり強硬でハードなクライミングでもフラフラになるほど疲労困憊したけども、悪性の不整脈は出なかった。これが希望をもてる要素の一つ。ただしC2からC3、さらにその上は、想像を絶する厳しい条件。超一流の登山家でも数多く遭難している場所だけに、私自身含め、メンバー全員の命がかかっている。お互いの安全を確認しながら、慎重に登攀と、そしてさらに下山の安全に全力を尽くす。

もう一つの今後の課題として、シェルパと豪太の組み合わせ、または、五十嵐、村口の組み合わせ。特に村口、五十嵐はカメラの撮影があるのでシェルパのサポートが必要となる。豪太自身も、僕をサポートする為に、かなりの負担がかかるので、強力な若手のシェルパのサポートが必要である。

これは最終的にキャンプ4(サウスコル、8000m)についての時点で、シェルパたちの体調を見ながら組み合わせを考える必要がある。強力で確実な安全対策をとりながら、登攀、登頂、下山を安全に努めなければならない。今回は原則として、三浦雄一郎が限界を感じ、それ以上は無理という時点で、全員が引き返すものとする。もっとも大切なのは登頂を目指すことには変わりはないけども、チーム全体の安全。全員無事下山帰国を大前提としなければいけない。

プロジェクトサイト: <http://www.qomolangma-kddi.com>

== この件に関するお問い合わせ先 ==

ミウラ・ドルフィンズ 三浦恵美里、松岡けい

Email: emili@snowdolphins.com tel 03-3403-2061 fax 03-3403-2079